

1 研究主題

「自己を見つめ、他者と共により良く生きようとする児童の育成」

～互いの思いを伝え合う道徳の授業づくりを通して～

2 研究主題を設定した背景

(1) 今日の課題から

平成30年度より、「特別の教科 道徳」(以下 道徳科とする)が全面実施された。この改訂の社会的背景として、深刻ないじめ問題や不登校問題、グローバル化や情報化、少子高齢化など児童を取り巻く社会や地域、家庭の変化が挙げられる。また、児童の自尊感情の低さや規範意識の低下、コミュニケーション能力の低下なども問題視されている。

このような状況の中で求められていることは、児童が未来に夢や希望を持ち、人間としてよりよく生きようとする力を育成することである。そのためには、道徳教育において、道徳科を要としながら、これまで大切にされてきた指導内容に加え、現代的な課題に対応すべく、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが必要になってくると考えられる。

このようなことから、学校教育において、学校の集団生活の場としての機能を生かし、道徳教育の一層の充実を図ることが大切になってくると考える。

(2) 本校の教育目標から

本校では、教育目標として、「郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」を掲げている。また、歴史的に培われてきた須古三近堂の教学精神「知・仁・勇」を、現代社会に照らして「正しく」「優しく」「元気よく」とし、児童の教育に反映するように努めている。この「仁」のめざす児童像としてあげている「感謝の心を持ち思いやりのある子ども」は、他者との関わりを前提としたものであり、具体像として挙げている、「友だちのよさを認め仲良く活動する,」「感謝の気持ちを持ち、人や物を大切にする。」は、道徳教育における「他者と共によりよく生きるための基盤」に通じるものである。

本研究主題に沿った教育活動を推進していけば、人との関わり合いの中で、互いのよさを認め合い、自分を見つめ、考え行動する児童の育成が図られ、本校教育目標の具現化にもつながると考える。

(3) 児童の実態より

本校は、白石町の北西に位置している。平成17年1月に、三町(旧白石町、旧有明町、旧福富町)が合併し、新「白石町」となった。その白石町の中でも学校の規模としては一番小さく、全ての学年が単学級で、特別支援学級の2学級(知的障害、自閉症・情緒障害)を合わせて8学級の小規模校である。本校児童は、明るく素直で何事にも一生懸命に取り組むことができる。三世代同居の家庭が多く、家庭の教育力もしっかりしている。家庭や地域の学校への関心も高い。

真面目で、決められたことは最後までやり通すことができる反面、積極的に課題を見つけ(主体的に関わり)、自分で判断し、考えや思いを表現することを苦手としているということも課題としてあげられる。

道徳教育においても、本校の児童は、与えられた課題や問題について、真面目に考えたり、自分の考えを持ったりすることはできるが、答えが一つではない道徳的な課題を自分自身の問題と捉え深く考えたり、進んで自分の考えや思いを表現したりすることについては課題がある。そこで、本校の道徳教育における教育課題を、①主体的な学び、②思考力、表現力(「考え、議論する」力)の向上と捉え、児童が主体的に学んでいく授業をめざし、その道徳教育の工夫と改善に取り組んでいくことが必要であると考えられる。

(4) これまでの研究から

本校では、平成26年度より3年間、研究主題「自分や友だちのよさを知り、ともに伸びようとする児童

の育成をめざして」～関わり合い、認め合う活動を通して～を掲げ、道徳や学級活動、特別活動を通して人権教育に取り組んだ。その中で、道徳では、総合単元的な道徳学習を取り入れ、他教科と連動させた単元構想を立て実践した。また、学級活動に、グループワークトレーニングを取り入れ、人との関わり方を学ばせる活動を設定したり、日常的に人権が尊重される人間関係づくり・雰囲気づくりのための環境整備にも取り組んだりした。このことにより、児童は自分や友だちのよさを認めるという態度が身につき、それは今日でも、児童の姿として残っている。また、昨年度まで、研究主題「自ら学び、考え、表現できる児童を育てる指導の工夫」を掲げ、全教科・領域において、基礎的・基本的知識や技能の習得と併せて、活用力向上を目指した授業実践を行ってきた。これらの実践により、自分の考えを書いたり、相手に自分の考えを伝えたりする場面では、積極的に活動する児童の姿が多く見られるようになった。

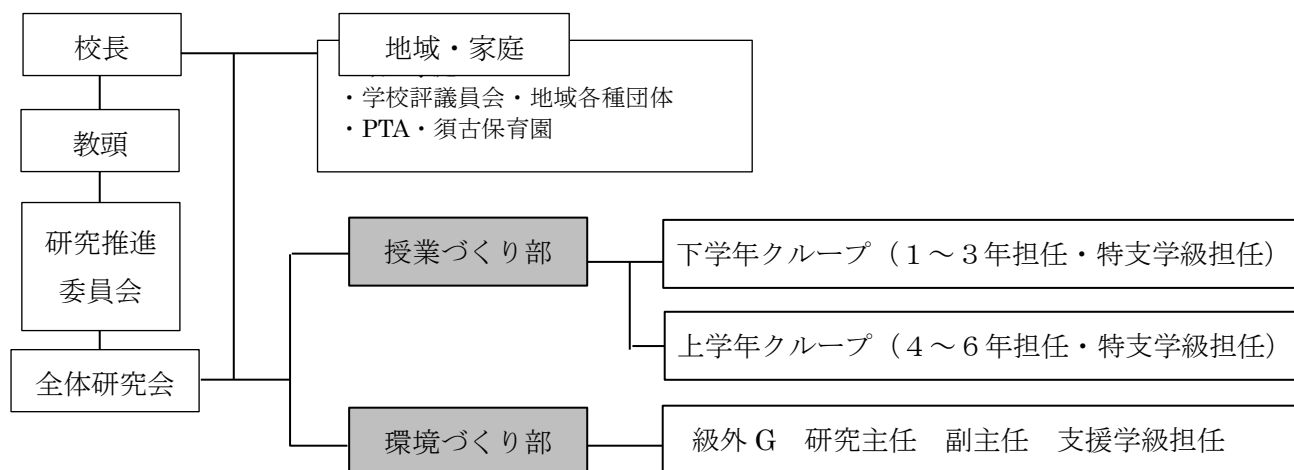
これまでの、研究から得られた成果を生かしつつ、学校教育活動全体において道徳科の授業づくりを軸に、自分の考えや思いを持ち、それらを表現したり、友だちの考えや思いに共感したりしながら関わり合い、認め合う授業づくりや活動の工夫改善を行っていききたい。また、学校での取組を家庭や地域に分かりやすく伝え、児童を取り巻く環境として大きな影響を持つ地域や家庭と連携した道徳教育も意識していききたい。

3 研究の目標

- (1) 「特別の教科 道徳」において、道徳的価値に関わる考え方や感じ方を交流し合うような授業実践を行うことにより、自己を見つめ、他者と共により良く生きようとする児童を育成する。
- (2) 「特別の教科 道徳」についての理解を深め、有効的な指導方法や評価の方法について、授業実践を通して明らかにする。

4 研究の内容と方法

(1) 研究の組織



研究推進委員会… 校長，教頭，教務主任
 研究主任 副主任
 上学年 G 代表 下学年 G 代表

構成部員

授業づくり部	下学年グループ	紀伊 松浦 藤家 川崎
	上学年グループ	井上 小田島 井手 重廣
環境づくり部	北川 山口 副島 小田島 松浦 紀伊 重廣	

(2) 研究計画

月 日	研 修 名	研 修 内 容
4月 3日 (水)	研究推進委員会	本年度の校内研究について
4月 8日 (月)	研究推進委員会	本年度の校内研究について 提案文書確認
4月24日 (水)	校内研究	本年度の校内研究について 提案 今後の研修計画・全体授業研について
5月22日 (水)	校内研究	実践へ向けて研究内容について 仮説, 構想図など
6月 3日 (水)	校内研究	理論研究(講師招聘)
6月	校内研究	研究授業
7月	校内研究	研究授業
7月31日 (水)	校内研究	研究内容について修正, 確認 G研
8月 7日 (水)	校内研究	G研
8月22日 (木)	校内研究	指導案検討会
9月18日 (水)	校内研究	} 研究授業・G研
9月25日 (水)	校内研究	
10月 2日 (水)	校内研究	
10月30日 (水)	校内研究	
11月 6日 (水)	校内研究	
11月27日 (水)	校内研究	
12月11日 (水)	校内研究	
1月22日 (水)	校内研究	研究のまとめへ向けて
1月29日 (水)	校内研究	G研
2月12日 (水)	校内研究	研究のまとめ 来年度へ向けて

○ 授業づくりについて

- ・児童生徒が自らを振り返って成長を実感したり, これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫する。
- ・自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実する。
- ・問題解決的な学習, 道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れるなど, 指導方法を工夫する。
- ・学級・児童の実態把握をもとに授業を組み立てていく。
- ・教科…道徳科を軸として, 総合学習, 生活科, 社会, 特別活動など, 他教科, 日常活動と関連づけながら, 授業を組み立てていく。

○ 具体的な授業実践として行っていくこと

- ・学びの足跡づくり (ワークシート, ノート, 掲示物など)
- ・評価の具体化

○ 児童の実態把握について

- ・研究内容に応じた質問項目を考え, 実態把握を行う。(5月, 12月)